工事設計図　令和　年　月（全　枚）

特　記　仕　様　書

1　工事概要

1. 工事場所
2. 敷地面積
3. 建築目的

2　適用図書

4. 工事範囲
※「3. 工事種目」のうち、下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち、　　の工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、今回工事範囲とする。

適用工事	工事範囲すべて
仮設工事	
鉄筋工事	
コンクリート工事	
コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	
防水工事	
石工事	
タイル工事	
木工事	
屋根及びとい工事	
金属工事	
左官工事	
建具工事	
カーテンウォール工事	
塗装工事	
内装工事	
排水工事	
解体工事	
撤去工事	
構内舗装及び外構工事	
雑工事	
電気設備工事	
機械設備工事	
昇降機工事	
特殊設備工事	
仮囲い及びその他の工事	
排水工事	
擁壁工事	
解体工事	

3　仮設工事

1. 足場・養生
2. 監督職員事務所
3. 工事用水
4. 工事用電力

4　地業工事

1. 地盤
2. 既製コンクリート杭地業

5　鉄筋工事

1. 鉄筋
2. 鉄筋の加工
3. 鉄筋の組立
4. 鉄筋の継手
5. 鉄筋の定着
6. 鉄筋の配筋
7. 鉄筋の検査
8. 鉄筋の保護
9. 鉄筋の保管
10. 鉄筋の錆び防止
11. 鉄筋の曲げ
12. 鉄筋の切断
13. 鉄筋の組立
14. 鉄筋の検査
15. 鉄筋の保護
16. 鉄筋の保管
17. 鉄筋の錆び防止
18. 鉄筋の曲げ
19. 鉄筋の切断
20. 鉄筋の組立
21. 鉄筋の検査
22. 鉄筋の保護
23. 鉄筋の保管
24. 鉄筋の錆び防止
25. 鉄筋の曲げ
26. 鉄筋の切断
27. 鉄筋の組立

4 地盤改良

3 鋼杭地業

寸法、寸法、継手等 (4.2.2)(4.4.3)(4.4.5)

種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (mm)	継手数	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備考

・特定埋込杭工法
・H15国土交通省告示第1113号第6に(4.4.4)
・H15国土交通省告示第1113号第6に250を採用できる工法 β．γが以
採用できる工法
α＝（　），β＝（　）
工法
・中掘り拡大根固め
・
試験杭
・図示による（
杭の種類
の位置ずれ
の内容による
杭の種類
・溶接
形状
・リ
溶接材
・種類
5)による
7.2.5(1)(2)
・無溶接継手（
工法
溶接定等を受
の位置
ない
・切断をともなう施工方法含む）
による（　　）

2 既製の中掘り杭
・既製のコンクリートと同調合のもの
工法
・アースドリル工法（安定液　※使用する　・使用しない）
・リバース工法
・オールケーシング工法（孔内の水張
併用する工法
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法　・SKK400　・SKK490
・鋼管の種類
・拡底杭工法（安定液　・使用する
寸法等
径　軸径　拡底径　杭長　セット数　打
(mm)　(mm)　(mm)　(mm)
試験杭
本杭
試験杭の位置
・図示による
孔壁の保持状況（孔壁
測定箇所
・試験杭（　）箇所
杭の支持層への根入れ深さ
・水平方向の位
・杭径の1/4
杭の傾斜
・1/100以下
杭の種類
種類
(4.5.5)
呼び径（mm）
備考
帯筋
・図示による（構造関係共通図）配筋標準図）2.1
・
鉄筋の重かぶり厚さ
・100mm
・

(4.3.8)(4.4.6)

(4.5.5)

(4.5.1)

(4.2.

(4.5.5)

(4.5.5)

(4.5.4)

4 場所打ちコンクリート杭地業

(4.5.5)

(4.5.1)

(4.5.4)

(4.5.4)

(4.5.4

6 コンクリート工事〈続き〉

13 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.2.1)(6.14.1)
※普通コンクリート

セメントの種類
※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又は (6.3.1)
フライアッシュセメントA種
・高炉セメントB種 G
・フライアッシュセメントB種 G

設計基準強度 (6.14.1)
※18(N/mm²) ・

スランプ (6.14.1)
※15cm又は18cm ・

適用箇所 (6.14.1)
・標準仕様書 6.14.1(4)(7)～(h)に
・図示による（ ）

14 流動化コンクリート

適用箇所 (6.15.1)
・図示による（

15 コンクリートの単位水量測定

・行う ・行わない
実施要領
(1) 量の測定は、150m³に 前下 の異常が認められた時に実施する。
上限値は、標準仕様 。
目標値は次の通り る。
量が、計画調合書の 「設計値」という。）
ある場合はそのまま
2) た単 設計値±15を超え 回にある場合は、水量変動の原
する ン製造者に改善を 運搬車の生コンは打設する。
その 計値±15 安定するまで、運搬 1回、単位水量の測定を
行う
3) 設計値 kg/m³を超え コンを打ようまで 打ながらせ、水量変動の原因を
調査す に生コン製 に指示しなければならない。その後の全運搬車の
測定を行 値±20kg/m³以内 を確認する。更に、設計値±15kg/m³以内で
安定する 搬車の3台毎に1回 の測定を行う。
4) 3)の不合格生 確実に持ち帰った 認する。
単位水量管理に 記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コ
ト温度等 により提出する。
(2) 方法 電波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容
量測定 機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7 鉄骨工事

1 鉄骨製作工場

骨製作工場の加工能力 (7.1.3)

2 施工管理技術者

(7.1.4)
・適

等

類の記号	適用箇所（主要な部分）	規格
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		・JIS規格による ・
		規格による ・

4 高力ボルト

高力ボルトの種類 (7.2
・トルシア形高力ボルト
・JIS形高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
・

ボルトの ト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示 （鉄骨標準図） 1-1 縁端距離及び
・

摩擦面の処理
溶融亜鉛め ト (7.4.2)
※標準仕様 (1)による
・

溶融亜鉛めっき面 (7.12.5)
・ブラスト処理
・りん酸塩処理

・すべり試験 (7.4.2)
試験の方法等
・図示による（ ・

5 普通ボルト

料 (7.2.3)
※標準仕様 による
座金 (7.2.3)
・標準仕様書7 による ・
ボルトの形状等 呼び)
・図示による ）
ボルトの縁端 ト間隔、ゲージ等
・図示に 造関係共通図（鉄骨標準図） 1－1 縁端距離、ボルト間隔）

ボルト

構造用アンカーボルト
種類 ・
形状、寸法
・図示による（ ・
・建方用アンカー
種類 ・
アンカー ナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
表7.2.3による ・

による（ ）・

ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.3.2)
・図示による（構造関係共通図（鉄骨標準図） 1－1 ボルト間隔）
・

7 溶接材料

溶接材料 (7.2.5)
・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
・図示による（ ）
・

ーンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックルボルト
※羽子板ボルト ・
建築用ターンバックル胴
※割枠式 ・
ねじの呼び (7.2
・図示による（ ）・

9 デッキプレート

材 状及び寸法 (7.7)

	適用箇所	材質・形状・寸法	等
・デッ の構法			
・デッキ リート			
との合成ス			

への溶接方法 (7.7.8)
による（

タッド

種 (7.2.8)

呼び長さ（m	適 用 箇 所

ル及びその

状及び寸法等 (7.2.8)
・図示による（ ）・

モルタルの種類 (7.2.9)
・無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料、調合等
材料、調合等
※標準仕様書7.2.9(2)(7)から(イ)による ・
準仕様書7.2.9(1)によるモルタル

12 精度

製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による
通しダイヤフラムの突合せ継手の食い違いの寸法
※平12建告第1464号第二号イ(2)による
・
アンダーカットの寸法
※平12建告第1464号第二号イ(3)によ
・
食い違い・仕口のずれの検査方法
・「突合わせ継手の食い違 れの検査・補強マニュアル」に
・

14 鉄骨の仮組

仮組を行う範囲 (7.3.10)
・図示による （ ）・

15 溶接技能者の技量付加試験

試験の要領 (7.6.3)
・図示によ ・

16 溶接接合

開先の形状 (7.6.4)
・図示による（ 共通 準図）1－2）
・
エンドタブを切断する び切断範 (7.6.7)
適用箇所
・図示による（ ）・
エンドタブを切断する 上げは標準仕 (1)(h)(b)による
スカラップの形状
示による（構造関係共通 骨標準図）1－4）

低応力高サ る部位 (7.6.7)
図示による（

17 溶接部の試験

第1464号第二号に関する 法等 (7.6.12)
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による
検査(1)
※抜 の

JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等
・JASS 10.4 [鉄骨工事] e.溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶
溶接部の外観検査の抜取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験
所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。

完全溶接部の超音波探傷試験
・工場溶接の場合

AOQL(%)	※4.0 ・2.5		
節	・全て		
検査水準	※第6水準		

・工場現場溶接の場合
※全数

塗料の範囲 (7.8.2)
耐火被覆材の接 塗装範囲
・図示による（ ）・
耐火被覆材の接着 の塗装範囲
・図示による（ ）・標準仕様書7.8.2(1)による

(7.8.4)(18.3.2)
止め塗料の (表18.3.1)
屋
・
屋内
・B種
・亜鉛 面の錆止め塗料の種別
・B種
筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗 (表18.3.1)
・A種 ・B種

・耐火被覆が接着する面の塗料の種別
・

19 耐火被覆

種類、材料、工法等

種 類	材料・工	間)	適用箇所（部位・	板工事
・耐火材吹付け	・乾式吹付 ウール			
	・半乾 ック ウ			
	・湿 ウール			
	・			
	・			
	・繊維 中			
・耐 張り	シウム			
	・			
塗付け	・高断熱ロックウール			
	・			
ラス張り モルタル塗り	―			
・耐火塗料				

20 ア 設置等

構造用アンカーボ 及び寸法 (7.10.3)
・図示による ）・

構造用 ームの形状及び寸法 (7.10.3)
（ ）・
び付属鉄骨）用アンカーボルト 埋込み工法 (7.10.3)(表7.10.1)
・A種 ・B種

タルの厚さ及び (7.10.3)(表7.10.2
厚
種別

21 軽量形鋼構造

ボルト接合方法 (7.11.2)
・

8 コンクリートブロック・ALC・押出成形セメント板工事

1 補 コンクリート

ブロックの種類 (8.2.2～5)

断面形状及び 穴率による区分	正	モジュール呼び 寸法(mm) 長さ	高さ	化	適用箇所	備考
(16)				・無 ・有		
・				・無 ・有		
・				・無 ・有		

タルの調合（容積比） (8.2.3)
目地巾が10mm程度 ※表8.2.1による ・
・
各部の 示 ・ 2.5)

ブロックの種類

断面形状及び 穴率による区分	正味厚さ (mm)	モジュール呼び 寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所
※空洞ブロックC(16)				・無 ・有	
・				無 ・有	
・				有	

モルタルの調合（容積比） (8.2
目地巾が10mm程度 ※表8.2.1による ・
上記以外 ・

各部の配筋 ※図示 ・

3 ＡＬＣパネル

4.2～5)(表8.4.2～4)

パネルの 区分	厚さ	幅 (mm)	長さ (mm)	耐火性能	構法の種別
・外壁用パネル	・			有（1）時間	・平 ・B種 ・意匠
・間仕切壁用 パネル	・100			（1）時間	・平 種 ・意匠 ・L
・屋根用パネル	100				
・床用パネル				有（ ）時間	F種

外壁パネルの構法
建築基準法に基づき定ま じした工法
※適用する（建築基準法 定まる風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3 ）倍の風圧
力に対応した
・適用しない
パネル幅の最小限度(mm)
※300 ・300未満は図示（ ）
パネルの目地幅(mm)
・ の接合部、 隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取
の目
目地幅(mm) ・ ・図示
伸縮目地への耐火 充填 ・適用する ・適用しない

4 押出成形セメント板（ECP）

(8.5.2～5)(表8.

パネルの 種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種別
・外壁	・F（フラットパネル）	・50 ・60 ・		・A種
	・D（デザインパネル）	・50 ・60	600	・B種
	・T（タイルベースパネル）	60		
間仕切壁 パネル	・F（フラットパネル）	・50 ・60 ・		・B種
	・D（デザインパネル）	・50 ・60	600	・C種
	・T（タイルベースパネル）	60		

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応し
※適用する（建築基準法に基づき定ま ・1 ・1.3 ）倍の風圧
力に対応した工法）
・適用しない
パネル幅の最小限度(mm)
※300 ・300未満は図示（ ）
パネルの相互の目地幅(mm)
長辺の目地幅 ・8以上 ・
短辺の目地幅 ・15以上 ・図
出隅及び入隅 ネル接合目地
※伸縮 ーリング材を充填 ・15 ・図示 ）
原則と 込み等は行わない。やむを得ず行う場合の開口の限度
）
ルの目地及びすき間の処理
ルの製造所の仕様による ・

建築工事特記仕様書（その3）	工 事 設計図	

SAMPLE

9 防水工事

1 アスファルト系

(9.2.2~5)（表9.2.3~9）

屋根保護防水

防水層の種別	施工箇所	断熱材(G)	絶縁用シート	立上り部の保護
・A-1			※木 15ドレンAL	
・A-2			・厚さ0.15mm以上	
・A-3				・乾式保護材
・B-1				
・B-2				コンクリート押え
・B-3				
・AI-1		（厚さ）	※ブラットーンガス 70g/m	
・AI-2		・25mm		
・AI-3		・50mm		
・BI-1				
・BI-2				
・BI-3				

改質アスファルトルーフィングシ[illegible]る。

部分拡散層付改質アスファルトシート[illegible]8による。

※標準仕様書表9.2.3[illegible]

平場の保護コンクリート[illegible]mm 以上

こて仕上げ

床タイル張り[illegible]以上

立上り部の保護

・乾式保護材

・[illegible]系パネル 無石綿の[illegible]板状に押出成形しオートク[illegible]

レーブ張仕上[illegible]

・金属板と樹脂[illegible]

・[illegible]れんが及び化粧[illegible]もの。

屋上[illegible]

屋根露出防水

防水層の[illegible]

種別	施工箇所	断熱材	種類	仕上塗料 使用量	表日射反射塗防水の適用(G)
・D-1					
・D-2			・[illegible]の指定による	・製造所の仕様による	・
					・
					・
・D1-1		（厚さ）			・
・D1-2		・25mm			・

屋根露出防水絶縁[illegible]の、ルーフドレン回りおよび立上り部周辺の断熱材の浮いしまい位置[illegible]

※図示

・材の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層 ・設ける（※図示 ）

・設けない

水層の下地、立上りコンクリート打設し仕上げ

※標準仕様書表6.4(1)打設し仕上げ(種別)の処理

押え金物の材質及び形状寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

防水層の下地のモルタル塗り ・図示

・適用する （施工範囲

・適用しない

2 改質アスファルトシート防水

(9.3.2.3)（表9.3[illegible]

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材(G)	防[illegible]	仕上塗料 使用量	表日射反射塗防水の適用
・AS-T1					
・AS-T2				・製造所の	
・AS-[illegible]				指定による	
・AS-[illegible]					
・ASI-[illegible]			改質アス		
・ASI-J1		・25mm			

改質アスファ[illegible]

※標準仕様書[illegible]

粘着層付改質ア[illegible]

※標準仕様書表[illegible]

部分拡散層付改質[illegible]

※標準仕様書表9.[illegible]3.3による

断熱材の種類 ・

押え金物 ・

[illegible]0mm程度

[illegible]防水絶縁熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

[illegible]施工法及び[illegible]

[illegible]トシート[illegible]の指定の種類及び設置数量

・種類） 設置数 個）

(9.2.2~5)（表9.2.3~9）

屋根保護防水

防水層の種別	施工箇所	断熱材(G)	絶縁用シート	立上り部の保護
・A-1			※木 15ドレンAL	
・A-2			・厚さ0.15mm以上	
・A-3				・乾式保護材
・B-1				
・B-2				コンクリート押え
・B-3				
・AI-1		（厚さ）	※ブラットーンガス 70g/m	
・AI-2		・25mm		
・AI-3		・50mm		
・BI-1				
・BI-2				
・BI-3				

改質アスファルトルーフィングシ[illegible]る。

部分拡散層付改質アスファルトシート[illegible]8による。

※標準仕様書表9.2.3[illegible]

平場の保護コンクリート[illegible]mm 以上

こて仕上げ

床タイル張り[illegible]以上

立上り部の保護

・乾式保護材

・[illegible]系パネル 無石綿の[illegible]板状に押出成形しオートク[illegible]

レーブ張仕上[illegible]

・金属板と樹脂[illegible]

・[illegible]れんが及び化粧[illegible]もの。

屋上[illegible]

屋根露出防水

防水層の[illegible]

種別	施工箇所	断熱材	種類	仕上塗料 使用量	表日射反射塗防水の適用(G)
・D-1					
・D-2			・[illegible]の指定による	・製造所の仕様による	・
					・
					・
・D1-1		（厚さ）			・
・D1-2		・25mm			・

屋根露出防水絶縁[illegible]の、ルーフドレン回りおよび立上り部周辺の断熱材の浮いしまい位置[illegible]

※図示

・材の種類

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層 ・設ける（※図示 ）

・設けない

水層の下地、立上りコンクリート打設し仕上げ

※標準仕様書表6.4(1)打設し仕上げ(種別)の処理

押え金物の材質及び形状寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

防水層の下地のモルタル塗り ・図示

・適用する （施工範囲

・適用しない

2 改質アスファルトシート防水

(9.3.2.3)（表9.3[illegible]

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材(G)	防[illegible]	仕上塗料 使用量	表日射反射塗防水の適用
・AS-T1					
・AS-T2				・製造所の	
・AS-[illegible]				指定による	
・AS-[illegible]					
・ASI-[illegible]			改質アス		
・ASI-J1		・25mm			

改質アスファ[illegible]

※標準仕様書[illegible]

粘着層付改質ア[illegible]

※標準仕様書表[illegible]

部分拡散層付改質[illegible]

※標準仕様書表9.[illegible]3.3による

断熱材の種類 ・

押え金物 ・

[illegible]0mm程度

[illegible]防水絶縁熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

[illegible]施工法及び[illegible]

[illegible]トシート[illegible]の指定の種類及び設置数量

・種類） 設置数 個）

(9.4.2~4)（表9.4.1~3）

屋内防水層の種類

種別	施工箇所	断熱材(G)	種類	仕上塗料 使用量	表日射反射塗防水の適用(G)
・S-F1					
			・製造所の	・製造所の	
			指定による	仕様による	
		（厚さ）			
		・25mm			
・S-M2					
・S-M3					
S1-F1					
			・製造所の	・製造所の	
			指定による	仕様による	
・S1-F2					
・S1-M1					
			・製造所の	・製造所の	
			指定による	仕様による	
・S1-M2					
		※発泡ポリ			
		エチシート			

屋内防水層の種類

種別	施工箇所	平場のモルタル塗り厚さ	立上り部のモルタル塗り厚さ

12　1　表面仕上げ　　(12.1-4)

表面仕上げの種別　適用箇所

・A種
・B種
・C種
・H-A種
・H-B種
・H-C種

2　製材 Ⓖ　(12.2.1)(12.4.6.1)(12.7.1)(表12.2.2)

施工箇所　樹種　寸法(mm)　等級　形状　含水率
※法面　※A種
閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所　樹種　寸法(mm)　造作用針葉樹製材の等級　形状　含水率
見え掛かり部　※上小節　※A種・B種
※A種・B種
※A種・B種
※A種・B種
閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所　樹種　寸法(mm)　※等　※等　※等　含水率　※10%以下　※A種・B種　※10%以下　※A種・B種　依存処理

・「製材の日本農林規格」による造作用製材

施工箇所　樹種　造作材の場合（※A種・B種）　造作材の場合（※A種・B種）　防虫処理の適用　含水率
・適用する　・適用しない　※A種・B種
閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

ホルムアルデヒド放散量　※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）　(12.2.2)

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所　樹種　接着剤の種類　見付け材面数　見付け材面の品質
※1等・2等　※1等・2等

閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所　化粧薄板の樹種　芯材の樹種　寸法(mm)　見付け材面数　見付け材面の品質
※1等・2等　※1等・2等

閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所　樹種　化粧薄板の樹種　化粧薄板の厚さ(mm)　見付け材面の品質

閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所　寸法(mm)　見付け材面の品質　含水率
※15以下　※15以下

閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所　化粧薄板の樹種　芯材の樹種　寸法(mm)　化粧薄板の厚さ(mm)　見付け材面の品質
※

閉鎖材等の適用　・する　しない（施工箇所：　　）

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所　化粧薄板の樹種　芯材の樹種　寸法(mm)　化粧薄板の厚さ(mm)　見付け材面の品質　含水率
※15以下　※15以下

閉鎖材等の適用　・する

・防腐・防蟻処理の適用箇所（　　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理の適用部位（　　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理の適用部位
・K2　・K3　・K4
・K2　・K3　・K4
・K2　・K3　・K4
・薬剤による防腐・防蟻処理　依存処理性能区分
・K2　・K3　・K4
・K2　・K3　・K4
・薬剤による防腐・防蟻処理　処理の方法
※薬剤仕様書12.3.1(6)(b)(1)～(4)による

8　間柱に用いる木材（土間スラブの土台、転ばし大引き及び転ばし根太は除く）
・杉又は松
9　床根太に用いる木材
・杉又は松
・ひのき
・杉又は松
10　窓、出入口、その他に用いる木材
・杉又は松
・ひのき
・杉又は松
11　小屋組に用いる木材
・杉又は松
12　壁及び天井に用いる木材

13　屋根及びこけら葺き工事

1　長尺金属板葺　(12.3.1)(12.3.2)

施工箇所　板の種類　屋根葺形状　屋根葺形状(mm)　備考
※JIS の屋根用
・心木なし瓦
・平葺
・立平葺
・横折葺
・横葺

下葺材料　・アスファルトルーフィング940
・改質アスファルトルーフィング　・樹脂基材タイプ（　　）

工法
建築基準法に基づき定まる高圧力及び積雪荷重に対応した工法
（建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法
・適用しない
・設置する　図示（　　）

2　折板葺　(13.2.2)(13.3.2)(13.3.3)(表13.2.1)

施工箇所　折板の形状　山高さ(mm)　山高さ区分　材料による区分　耐力による区分　厚さ(mm)　野地板
・かん合形　（　）種　※鋼板製・アルミ板・合成樹脂板　・有り　・無し

材料　・ひびコイルの種類（　　）
・耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
・屋根仕様書14.2.2による　・任意（　　）　・厚さ（　　）
工法　建築基準法に基づき定まる高圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる高圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
折板のけらば納め　※けらば包みによる方法　・

3　粘土瓦葺　(13.4.2.3)

施工箇所　製法による区分　形状による区分　寸法による区分　大きさ　産地　役物の種類　風圧
・適用する　・適用しない

・防水・防蟻処理の適用箇所（　　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理の適用部位（　　）
・薬剤による防腐・防蟻処理　依存処理性能区分
・K2　・K3　・K4
・K2　・K3　・K4
・K2　・K3　・K4
・薬剤による防腐・防蟻処理　処理の方法
※薬剤仕様書12.3.1(6)(b)(1)～(4)による

8　間柱に用いる木材（土間スラブの土台、転ばし大引き及び転ばし根太は除く）
・杉又は松
9　床根太に用いる木材
・杉又は松
10　窓、出入口、その他に用いる木材
・杉又は松
・ひのき
・杉又は松
11　小屋組に用いる木材
・杉又は松
12　壁及び天井に用いる木材

13　屋根及びこけら葺き工事

1　長尺金属板葺　(12.3.1)(12.3.2)

施工箇所　板の種類　屋根葺形状　屋根葺形状(mm)　備考
※JIS の屋根用
・心木なし瓦
・平葺
・立平葺
・横折葺
・横葺

下葺材料　・アスファルトルーフィング940
・改質アスファルトルーフィング　・樹脂基材タイプ（　　）

工法
建築基準法に基づき定まる高圧力及び積雪荷重に対応した工法
（建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法
・適用しない
・設置する　図示（　　）

2　折板葺　(13.2.2)(13.3.2)(13.3.3)(表13.2.1)

施工箇所　折板の形状　山高さ(mm)　山高さ区分　材料による区分　耐力による区分　厚さ(mm)　野地板
・かん合形　（　）種　※鋼板製・アルミ板・合成樹脂板　・有り　・無し

材料　・ひびコイルの種類（　　）
・耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
・屋根仕様書14.2.2による　・任意（　　）　・厚さ（　　）
工法　建築基準法に基づき定まる高圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する（建築基準法に基づき定まる高圧力及び積雪荷重に対応した工法）
・適用しない
折板のけらば納め　※けらば包みによる方法　・

3　粘土瓦葺　(13.4.2.3)

施工箇所　製法による区分　形状による区分　寸法による区分　大きさ　産地　役物の種類　風圧
・適用する　・適用しない

・防水・防蟻処理の適用箇所（　　）
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理の適用部位（　　）
・薬剤による防腐・防蟻処理　依存処理性能区分
・K2　・K3　・K4
・K2　・K3　・K4
・K2　・K3　・K4
・薬剤による防腐・防蟻処理　処理の方法
※薬剤仕様書12.3.1(6)(b)(1)～(4)による

8　間柱に用いる木材（土間スラブの土台、転ばし大引き及び転ばし根太は除く）
・杉又は松
9　床根太に用いる木材
・杉又は松
・ひのき

15 左官

1 ラス系下地

下地の種類 ・通気工法 （ ・一層下地 ・単層下地 ）
・重張り工法 （ ・ラスモルタル下地 ・ラスシートモルタル下地 ）
・図示（外張断熱工法で断熱材の外側に野縁を施工する形式の通気工法を行う場合）
ラス下地板 下地用合板 断材等の仕様
※ 「公共建築木造工事標準仕様書」の10節断熱材割り による
材料 ラス材及び補強用半ラス 通気工法二層下地 ※2種類ラス700 ・
通気工法一層下地 ※2種防水紙リブラス800 ・
ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分
※JIS A 5505（耐力壁の場合）
ステープルの形状及び寸法 ※JIS 9251S
リブラス ※JIS 0194AS
溶形ラス

2 ラボード、ラボード及び木系せメントボードの面のボード下地

材料 せっこうボード、せっこうラスボード及び木系せメントボード 厚さ（ ） 厚さ（ ） 厚さ（ ）

3 こまい下地

4 木ずり下地

材料 板の材種 ※杉（ ・あり ）

5 モルタル塗り

モルタル塗り 接着剤 ・既調合材料（ ）
設けない ・ （ ）
既製目地材 ・ （ ）
床の目地 ・ （目地間隔5m程度）
・ （ ）
・ ※押し目
外装タイル張り下地 ・ ※モルタル塗り 窓塗材塗りの接着力試験
・適用しない

6 塗装 （15.5.2）（表15.5.1）

7 仕上塗材仕上げ

建物内部に使用する塗材（アルデヒド放散量 （15.6.2）（表1
※断材対象外（1-8 建築への配慮（2）による）
の種類

呼び名	防火材料	仕上げの形状
・外装薄塗材S	・	・砂壁状
・可とう形外装薄塗材S	・	・ゆず肌状（・吹付け
・外装薄塗材E	・	・さざ波状
・可とう形外装薄塗材E	・	・平たん状
・防水形外装薄塗材E	・	・凹凸状（・吹付け ・こて
・外装薄塗材F	・	・煉瓦骨材塗状（・吹付け
・内装薄塗材C	・	・砂壁状じゃらく
・内装薄塗材E	・	・左官状じゃらく
・内装薄塗材S	・	・適用する ・適用しない
・内装薄塗材Si	・	・適用する ・適用しない
・外装厚塗材C	・	・平たん状
・外装厚塗材E	・	・凹凸状 ・
・外装厚塗材G	・	・
・外装厚塗材H	・	・
・内装厚塗材C	・	・
・内装厚塗材E	・	・
・内装厚塗材G	・	・
・内装厚塗材H	・	・
・内装厚塗材Si	・	・
・薄塗材E	・	・砂ず目状 ・ ・凹凸状
・	・	・
・	・	・
・薄塗材Si	・	・仕上塗材 ※耐候形3種
・複層塗材E	・	・ ・溶剤系
・防水形複層塗材E	・	・ 外観 ・つやなし ・メタリック
・防水形複層塗材Si	・	・
・軽量骨材仕上塗材	・	・
・	・	・仕上塗材

（15.2.4）

（15.3.2）（15.3.5）

（15.2.6）

（15.2.7）

（15.6.4）

（15.7.2）

（15.8.2）

ALCパネルの場合の下地処理

9 マスチック塗材塗り

内壁目地部の形状 ※V形

10せっこう系塗り

材料 下塗り及び 現場調合プラスター
上塗り 既調合プラスター（上塗り用） ・しっくい塗り
に用いるせっこうプラスター

11しっくい塗り

下地 ・こまい土壁塗り、せっこうラスボード又はせっこうボード
・既調合材料（しっくいの塗材の種類等： ）
※びび塗厚
木づり下地 ※建築仕様書表15.10.1による ・
こまい土壁下地 ※建築仕様書表15.10.2による ・

（15.11.7）

（16.1.8）
（11.2）

（16.1.3）

（16.1.4）

（16.1.6）

（15.11.5）（表15.11.9）

（15.12.2）（15.12.3）

（16.2.2）（16.2.5）

（表16.2.1）（表16.2.2）

（表14.2.1）

（表14.2.1）

（16.9.3）

（16.10.3）

（表16.11.1）

（16.11.2）（16.11.3）

（16.4.2～4）（表16.4.2）

（16.4.2）（16.4.2）（16.4.2）

（16.4.2）（16.4.2）（16.4.2）

（16.7.2～4）

（16.8.2.3）

（16.9.2～5）

（16.9.2）

（16.9.3）

（16.12.2～4）（表16.12.1）

16 建具

建具材の加工、建物内部の木製建具 ※枠材 ※日種 ・
する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
の配慮（2）による） ・

ルジュ戸
の種類 樹種・規格等 備 考
生地 透明塗料塗り
（※ワニス系程度
不透明塗料塗り
・ ）
化粧合板Ⓖ 板面の品質（ ）
接着の種類（ ・1類 ・2類 ）
樹種名（ ）
接着の種類（ ・1類 ・2類 ）
化粧加工の方法
（ ・ナーバーイ ・プリント ・塗装）
特殊加工化粧合板Ⓖ 表面性能（ ・1類 ・2類 ）タイプ
接着の種類（ ・1類 ・2類 ）

表面板の厚さ ※表16.7.6による

・かまち戸
かまち戸樹種（ ）
見込み寸法 ※36mm
・ふすま
工法 ・Ⅱ型
上張り ・鼠ムの子又は
縁仕上 ・塗り
取付け寸法 ※19.5mm ・生地張
・ ・建具表による
・ ・建具表による
・ ・建具表による

17 カーテンウォール工事

1 取付方法，性

(17.1.3)(17.2.2)(17.3.2)

取付方法　・層間方式　・柱，梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式　・

性能

耐震性能		水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性 (℃)
水平方向 (kH)	垂直方向 (kV)						
・1.0	・0.5					・30分	・80
・	・					・1時間	・70
							・60

耐風圧性能

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

※適用する（建築基準法に基づき定まる風圧力の（ ・1　・1.15　　倍の風圧力に対応した工法）

・適用しない

主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く

支点間距離(h)	耐風圧
4m以下	・たわみ　150）×hかつ絶対量20　ること ・
4mを超える	・

層間変位追従性

建築物の構造種別	対象量（h=支点間距離）	変位後の状態
	×h以上	
鉄骨	・	
リート造	・土	
リート造	・	

シー　材

下記　　構造　　7.1による

		ング材の種類
の組合	記号	成分による区分

ガラスの取付け

構造ガスケット

・適用する　　所　・図示　　）

材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系

材　・H型　　型　・C型

ガラス（　　），支持枠の厚さ（　），ウェブの寸法（　）

・適用

断熱材 G

種類（　　）

厚さ(mm)（　　）

箇所　・図示　・

	種　別	
・ファ　ー部		
・取付けブラケット		
ネル目地部		
・層間ふさぎ		

性能の確認方法及び判定方法

・行う　・行わない（資料による承

2 メタルカーテンウォール

適用は以下によるほか，カーテンウォー　(17.2.2)(17.2.3)(

金属系材料の種類

・アルミニウム材　・鋼材　・ステン

（アルミニウム材の場合）

規格等　標準仕様書16.2.3による

種別　・　（標準仕

着色　・標準色　・特注色

行う　・行わない

形状

製品　　仕様書表17.2.1による

見え掛　の仕上げ

ガラス　　形状等　※カ　　焼所の仕様　・

取付け

躯体付け金　け位置の寸法許容差

鉛直方向　0mm　・

垂直方向　mm　・

カーテンウォー　取付け　法許容差

目地の幅　※±3mm　・　mm

目地の芯の通　※＋2mm　・　mm

目地両側の段差　※＋2mm　・　mm

各階の基準墨から　での距離　※±3mm　・　mm

3 PCカーテンウォール

適用は以下によるほか，カ　ール図による　(17.3.2～5)(表17.3.1)(表17.3.2)

種類（

質　設計基　(Fc)　※30N/mm²　・

スランプ　※12cm　・

気乾単位容積質量

・普通コンクリートの場合　2.1t/m³を超え2.5t/m³以

・

単位水量の最大値　※185kg/m　・

鉄筋　類記号　※SD295A　・

補強　径（mm）　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0

網目寸法　・

材料

表面仕上材

・セラミックタイル

・石材（・花こう岩　・大理石　・　）

・

・建具枠

・ゴンドラ用ガイドレール

及び仕上げ

製品の見え掛り部の寸法許容差

※標準仕様書表17.3.3に

・上記以外

辺長　mm）対角線長の差（　mm）版厚（　mm）

開口部内　mm）ねじれ，そり（　mm）

曲が　mm）面の凹凸（　mm）

寸法　mm）

の仕上げ　・

トを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)　・

取付　面の寸法許容差

※標準仕様書表17.3.2による　・

18 塗装工事

1 材料

(18.1.3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）

・防火材料　※屋内の壁，天井仕上げは防火

・次の箇所を除き防火材料

所：　　）

らえ

(18　表18.2.1～7)

	下地面等	
木部	不透明塗料塗りの	※A種
	透明塗りの場合	※B
鉄鋼面		種　・B種
亜鉛めっき鋼面		・B種
モルタル面及びプラスター面		・A種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		A種
コンクリート面（DP）及び押出成形セメント板面		
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※A種
ボード面	目地：継目処理工法以外	※B種

3 錆止め塗料塗り

(18.3.2)(　表18.1～4)

		工程の種別	塗 種別
鉄鋼面	面等		
	目掛り部分	※A種　・B種	下記以外の場合
	隠れ部分	※B種　・A種	A種　・B種
			の場合
			・A種　・B種
っき鋼面	鋼	※A種　・B種	※A種　・B種　・C種
	鋼製	※B種　・	下記以外の場合
			※B種　・A種　・C種
			EP-Gの場合
			※C種　・A種　・B種

4 塗装

(18.4.1～13.2)(表18.4.1～13.1)

塗　装		種　別	塗料の種類
・合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種
	木部屋内	※B種　・A種	※1種　・2種
	鉄鋼面	※B種　・A種	※1種　・2種
	亜鉛めっき鋼面	―	※1種　・2種
・クリヤラッカー塗り(CL)		※B種　・A種	―
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		※B種　・A種	―
耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	（ ）級
	亜鉛めっき鋼面	―	（ ）級
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・A種　・B種　・C種	
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP-G)	コンクリート面等	※B種　・A種	
	屋内の鉄鋼面	※B種	―
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)			―
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		種　・A種	―
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		※B種　・A種	―
・オイルステイン塗り(OS)		―	
・木材保護塗料塗り(WP)	屋	※B種　・A種	―

高日射反射率塗料 G の適用　・適用しない

適用箇所　上面の金属面　・

内装工事

1 接着剤

(19.2.2)

接着剤のホルムアルデヒド放散量

※規制対象　環境への配慮（2）に

接着剤に含　　難揮発性のもの

施工箇所の　下地及び木質系下地　・図示

2 ビニル床シート G

(19.2.2)(19.2.3)

種類の	色柄	(mm)	備考
※FS（複層ビニル　ート）			
・			
・	・模		

目地処理する場合の　熱溶接工

3 ビ

(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸	厚さ (mm)	備考
ジョンビニル床	・無地	・300×3	※2.0	
・TT　　タイル）	・柄物	・450×450	・2.5	
・FT（複層		・500×500	・3.0	
CGA（置敷きビニル			・	
・（薄型置敷きビニル				

4 特殊機能床

(19.2.2)

別	厚さ，寸法，形状 (mm)	性能	種類
・帯電			
・帯電防止			
・視覚障害者			
・耐動荷重性床			
性床シート			
ル			

5 フローリング

(19.3.3)(19.3.4)(表19.3.1)(表19.3.2)

・織じゅうたん

種　別	パイ	織り方	色柄等	帯電性	備　考
・A種	・カットパイ	・ウィルトンカーペット	・無地	・適用する	
・B種	・ループパイ	ダブルフェースカーペット	・柄物	・適用しない	
	・カット，ループ併	タフテッドカーペット	（標準品）		

・　　※反毛フェ　ル L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

種　　の接合方法　ートボンド工法　・

・タフテ　ペット

パ　　ル	パイル長さ (mm)	工法	帯電	備考
・カット	・	※全面接着工法	・適用	
・ルー	・	・グリッパー工法	・適用し	
・	パイル ・			
	ループ併用 ・			

材（グリッパー工法の場合）

毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・ニードルパンチカーペット

厚さ（mm）　（　　）

帯電性　・適用する

・適用しない

備考　（

・タイルカーペット

パイル形状		施工箇所	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備考
※ループパイル	種		※500×500		
	種		・		
・カットパイル	種			※6.5	
				・	
・カット，ループ併用			500×500	※6.5	
			・	・	
	・				

ルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・機械流し　・

階段部分　※機械流し　・市松敷き

見切り，押え金物　・適用する（材質，形状等　　・

・適用しない

7 ビニル床

(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1～8)

種	施工箇所	工　法	仕上げの種類
・厚膜型			※平滑仕上げ
（	脂系		・防滑仕上げ
			・つや消し仕上げ
塗床材		・	・平滑仕上げ
・エポキシ樹脂塗		のベス工法	・防滑仕上げ
1）		のベス工法	
		ルタル工法	
			※平滑仕上げ
・7			工程
（JIS			塗布量（kg/m²）
（防塵塗料			・
			表面仕上げ
			・平滑
			溶剤
			溶剤系　・無溶剤系
			単色　・

成樹脂塗床材のホルムアルデヒド放散量　(19.4

※規制対象外（1-8 環境への配慮（2）による）

(19.5.2～6)(　　5)

単層フローリング G

種　類	工　法	樹種	厚さ	仕上	材等の適用
・フローリング	・釘留め工法	※なら	※標準仕様書19.	品	・
ボード1等	（根太張り）	・	・		
	・釘留め工法	※なら	※標準仕様書19.5.1によ		・
	（直張り）	・	・		
	・接着工法	※なら	※標準仕様書19.5.1による		
		・	・		
・フローリ	接着工法	※なら	※標準仕様書19.5.1による	・塗装品	
ブロッ		・	・	・無塗装品	

複合フローリング

種　類		樹種	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
面	・釘留め	ら	・A種	・適用する		・
	（根太張り）		・B種	・適用しない	品	
	釘留め工法		・C種			
	（直張り）					
	接着工法					

フローリ　ムアルデヒド放散量

※規制対象　-8 環境への配慮（2）によ

接着工法　緩衝材　※合成樹脂発泡シート

現場塗装　行う（施工箇所

※ウレタン樹脂ワニス塗り

・オイルステインの上，ワックス塗り

・生地のままワックス塗り

・行わない

9 畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)

・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ　・KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-

種類　・標準仕様書表12.6.1による床組

・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン G)

畳　ホルムアルデヒド，アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか，発散

少な　したものとする。

10 ボード，及び

(19.7.2)(19.7.1)

種　類	JIS記	厚さ (mm)，規格等
・硬質木毛セメント板 G	HW	20　・25　・
中質木毛セメント板	MW	0　・25　・
毛セメント板 G	NW	・1　・20　・25　・
G	HF	・12　・15　・18　・21　・
・普通		・30　・
・けい酸カルシ	FK	ﾀｲﾌﾟ2（無石綿）　・6　・8
ウール化粧吸音板		・ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ（・9（不燃）・12（不燃）・　）
		・凹凸ﾀｲﾌﾟ（・12（不燃）・15（不燃）・　）
音ボード1号	RW-B	・25　・
ボード32K	GW-B	・25（ｶﾞﾗｽｸﾛｽ包）　・
・せっ	GB-R	・12.5（不燃）・15（不燃）
・不燃材 ボード	GB-NC	9.5（不燃）化粧無（下地張り用
		化粧有（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様
ｼｰｼﾞﾝｸﾞせっこうボード	GB-S	12.5（不燃）
っこうボード	GB-F	・12.5（不燃）・15（不燃）
こうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）	GB-D	12.5（不燃）　幅440mm程度
		模様（・柾目　・板目）専用下地材有り
・化粧せっこうボード（ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様）	GB-D	（準不燃）
・普通合板 G		り（※ﾗﾜﾝ程度　・
		※しな程度　・
		・
		厚 　　）
		接着の　　）
		・防虫処
・天然木化粧合板 G		樹種名（　　）
		接着の程度（・
		厚さ(mm)（　）
		・防虫処理
・特殊加工		化粧加工の方法（・オーバ　ント・塗装）
		表面性能（　　）
		程度（・1類　・2類）
		）
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板		96　　）
・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂化粧板		
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰ	MDF	・3　・7　・9　・12　・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（素地）G		・無研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）
		・研磨板　（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ（化粧）G		・内装用　・外装用
		・2.5　・3.5　・5　・7
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞ G		A級（・天井仕上　・内装仕上　・　）
		・9　・12　・15　・18

地　※図示

用する（　　グ材　・ジョイントコンパウンド ）

しない

合板類，MDF及び　ルボードのホルムアルデヒド放散量

※規制対象外（1-　への配慮（2）による）　・

合板類の強付け　※　・A種

せっこうボードの　　・仕上げ表による

11 壁紙張り

ホルム　放散量　(19.5.2　6)

（1-8 環境への配慮（2）による）　・

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	プラスチック	無機質	その他	防火種別	備考
	・	・	・	・	・	・不燃　・準不燃　・難燃	
	・	・	・	・			
	・	・	・				
	・	・	・				

モルタル及びプラスター面の素地ご　　※B種　・A種　（表18.2.4）

コンクリート及びALC面の素地　　※B種　・A種　（表18.2.5）

せっこうボード面及びその他ボー　地ごしらえ　※B種　・A種　（表18.2.7）

12 断熱材 G

(19.9.2)(1

ロックウール　スウール，フェノ　　綿組又はメラミン樹脂を使用し

材及び接　スアルデヒド放散量

※規　1-8 環境への配慮（2）による）　・

込み工法

種　類	(mm)	
ーズ法ポリスチレンフォー　熱材		
・押出法ポリスチレンフォー　スキン層なし）	・	
・硬質ウレタンフォーム	・	・
・フェノールフォーム	・	・

断熱材現場発

熱材の　種1又はA種1H　・

・25　・30　・

・図示　・

建築工事特記仕様書（その7）	工　事 設計図

SAMPLE

20 ユニットの他の工事

1 フリーアクセスフロア

施工箇所	構法	寸法(mm) 高さ(mm)	耐震性能	所定荷重	表面仕上げ材	備考
・屋敷式 ・支柱調整式	・500×500・ ・	・1.00 ・0.60	・3,000N ・5,000N	・帯電防止床タイル ・タイルカーペット		

(20.2.2)

寸法精度　※標準仕様書20.2.2(2)による　・
帯電防止性能　・以内（クラス1）　・以内（クラス2）
漏えい抵抗　・Rξ1×10⁶Ω　・

表面仕上材の品質　・アルミニウム製　・鋼板
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼板
スロープ及びポーター　・敷居所の仕様
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積　・　・　・

SAMPLE

21 排水工事

(21.2.1)(改21.2.1)

1 屋外雨水排水管

排水管用材料					
	材　種	管の種類	形　状	呼び径	備　考
・遠心力鉄筋コンクリート管		外圧管（1種）	・B形管	・図示	・
・硬質ポリ塩化ビニル管		・VP	・	・図示	・
		・VU		・図示	・
		・RS－VU Ⓖ		・図示	・
		・DV		・	・
・硬質ポリ塩化ビニル管継手		・VU継手			

基礎の厚さ及び種類　・図示　・

側塊の形状及び寸法　・図示　・

排水桝の種類　・図示　・

砂利敷業に用いる材料（6.4.2(2)）

・シルト　・山砂

砂利敷業に用いる材料（6.4.2(1)）　・切込砂利　・砂

・再生クラッシャラン

現場打ちの場合のコンクリート　設計基準強度　・　※18N/mm²

現場打ちの場合の鉄筋　種類　※SD295A

・　・

2 鋳鉄製ふた

(21.2.1)

	種　類	適用荷重	鍵	備　考
鋳鉄製ふた	（バッキン式） 中ふた（バッキン式） （テーパ・バッ	・2用 ・6用	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会SHASE-S209による

3 コンクリート製ふた

(21.2.1)

	材　質	用　途	荷重	メインバー	蓋枠のつば	上面形状
・コンクリート製ふた		・溝ふた（横断用）	・歩行用	ピッチ	（付着量）	
		・溝ふた（側溝用）		・縦目	・（　）	・凹凸形
		・桝ふた用				・平形
	ステンレス	・受枠付き・溝ふた（横断用）	・歩行用	・T－2用	・T－6用	・凹凸形
		ボルト固定・溝ふた（側溝用）		・T－6用	・T－14用	・平形
		・桝ふた用		・T－14用	・T－20用	
		・U字溝用		・T－20用		

4 コンクリート製ふた、縁石、側溝

(21.2.1)

	種　類	形状、寸法
・縁石		・図示　・
・L形側溝		・図示　・
・U形側溝		・図示　・
・U形側溝ふた		・図示　・
・		

地業の材料

・シルト　・山砂　・川砂

砂利地業に用いる材料

・再生クラッシャラン　・切込砂利

砂利地業の厚さ　※100（mm）　・図示

・現場打ちの場合のコンクリート材料　設計基準強度　※18

・図示　・

5 埋戻し土

(21.2.1)

※砂利敷（標準		

22 舗装工事

(22.2.2)(22.2.3)(22.2.5)

1 路床の整正

	材　料	厚　さ
・盛土	・A種	・図示
・盛土部制限	・B種（再生した処理土Ⓖ）	・図示
・	・C種	・図示
	・D種	・図示

(22.2.4)(改22.2.2)

	整備範囲	土壌改良材
・	・適用する	・適用する
・	・適用しない	・適用しない

2 路盤

	材　料	厚　さ
・	・	・図示
・	・	・図示

(22.2.3)(22.3.5)(改22.3.1)

	整備範囲	土壌改良材
・	・適用する	・適用する
・	・適用しない	・適用しない

3 アスファルト舗装

(22.4.2)～(22.4.6)

	材　料	厚　さ
・	・	・図示
・	・	・図示

(22.3.5)(改22.3.1)

	整備範囲	土壌改良材
・	・適用する	・適用する
・	・適用しない	・適用しない

4 コンクリート舗装

(22.5.2～4)(改22.5.6)(改22.5.1～3)

	部　位	厚　さ
コンクリート舗装	歩行者用通路	※70　・図示
	車路及び駐車場	・150　・図示

5 カラー舗装

(22.6.2～4)(改22.6.1)

	層	厚さ（mm）
・加熱系	・	・図示
・常温系	・	3～5
	1層仮以下	

6 透水性アスファルト舗装

(22.7.2)(22.7.3)(22.5.6)

	材　料	厚　さ（mm）
・	・	・図示

7 ブロック舗装

	種　類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材	表面加工
・コンクリート					・研ぎ出し
※普通平板（N）		※300角	・60	※砂	・洗い出し
・透水平板（P）		・	・	・モルタル	・たたき出し

・使用する　・平板は Ⓖ（再生材料を用いた舗装用ブロック）とする。

（透水性・　ト）とする。

ウッシュ　※砂　・空隙モルタル

仕上がり　ん性　※歩行に支障のないものとし、コンクリート平板厚の　mm以内

・イ・

	部　位	厚さ（mm）	曲げ強度（N/mm2）
キングブロック舗装			
・	※90	・	※5.0　・
ブロック（P）	歩行者用通路	※60　・	※3.0　・
		・	・

歩道部に使用するブロックは Ⓖ（再生材料を用いた舗装用ブロック）とする。

クッション材　※砂　・空隙モルタル

目地材　※砂　・モルタル

・舗石舗装

	種　類	寸法（mm）	工方法	基層（mm）
・小舗石（花崗岩）		・	・うろこ張り	・コンクリート舗装
		・60		（※70　・　）
		・		・アスファルト混合物
				（　　）
				・
				・
				・